

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

栗谷正樹

1. 単元名 「これからもノダフジが咲き続けるために～新札を起点とした地域学習」

2. 単元の見どころ

- ノダフジに関する資料の読み取りや「のだふじの会」への聞き取り、町探検などを通し、ノダフジに対する人々の思いや努力、直面する課題などを理解することができる。 (知識及び技能)
- ノダフジや「のだふじの会」の現状や課題を踏まえ、これからも花が咲き続けるために自分たちにできることを考え、表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 手入れがなければノダフジは咲かなくなってしまうことへの気付きや課題の把握を踏まえた上で、課題解決に向けて進んで取り組もうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、令和6(2024)年発行の新5000円札裏側に採用されたノダフジを扱う。明治時代、植物学者の牧野富太郎博士は、フジの名所であった大阪市福島区野田地区に由来して日本固有のフジをノダフジと命名した。遅くとも平安時代末期には自生し、室町幕府2代将軍足利義詮や豊臣秀吉も見物したとされる。大坂の陣などの数々の戦乱に見舞われたがその度復活し、江戸時代には『吉野の桜、野田の藤、高尾の紅葉』と歌われ、フジの名所として人気を博した。しかし、明治時代以降の都市開発や工業化によりノダフジは急激に減少、昭和時代の空襲・戦後の台風による高潮被害で壊滅状態となった。『野田の藤跡』碑も建立され、地域から忘れ去られてしまったノダフジであったが、約50年前から地元住民が再生活動を本格化させ、最後の原木からの接ぎ木や学校など公共施設への藤棚の寄贈などを行った。再び花を咲かせたノダフジだったが、その後、花が咲く藤棚は減少し、平成時代に入ると僅か3-4か所になってしまう。平成18(2006)年、地元住民の呼びかけにより「のだふじの会」が結成された。何年にも及ぶ努力によりノダフジがついに復活、現在は区内約30か所で花を咲かせている。街中でノダフジが咲くことは当たり前ではなく、「のだふじの会」をはじめとする人々の思いや努力によって受け継がれてきたが故であることに気づかせ、誇りを持たせたい。さらに、上記の課題を踏まえ、児童がこれからもノダフジが咲き続けるために必要なことを考え、大人を巻き込みながら活動をする展開へと繋げたい。

一方、課題も見受けられる。社会科第四学年では『県内の伝統や文化、先人の働き』を学習するが、副読本にノダフジの取り扱いはない。また、「のだふじの会」によるとコロナ禍以降、近隣小学校との交流が途絶えている。さらに、会員の高齢化や高所での作業、温暖化に伴う猛暑の中での剪定や水やり作業の増加などの要因により、管理する藤棚を減らさざるを得ない現状もある。

(2) 児童観

当該地域では、社会科第四学年の『県内の伝統や文化、先人の働き』にて天神祭を扱うことから、現行

の副読本でのノダフジの記載はなく、児童が学習する機会ほとんどないように思われる。そのため、駅名標や役所、商店街、町名プレートなどに藤のイラストや紫色が採用されている理由がノダフジに由来することを知らない児童も数多くいることが予想される。これまでの長い歴史の中で人々が行ってきたようにノダフジを次世代へ受け継いでいくためにも、新札を起点に取り上げる意義は大きいと考える。

(3) 指導観

本単元では、新札の発券を起点に、ノダフジが有名な理由やその歴史を調べる中で、①人々の支えによって何度も困難を乗り越えてきたこと、②戦後は絶滅寸前だったが地元住民の力によって復活したことを認識させたい。その後、平成時代以降に焦点を当て、「のだふじの会」への聞き取りなどから、ノダフジは手入れをしないと咲かなくなることや「歴史のある藤を地域の宝として大切にしたい」などの思いが込められていることに気付かせ、ノダフジが咲くことが当たり前ではないことを認識させたい。その後、町探検などで発見したノダフジの良さや自分たちに出来ることを「のだふじの会」の皆様で発表する場面で、現在、直面する課題について話をしていただく。脚立を必要とする高所での剪定作業など、児童が解決に向けて直接的に関わるのが難しい課題であっても、「自分たちにできることは何か」を改めて考えさせ、間接的であっても課題の解決につながるような活動を、大人を巻き込みながら展開させたい。なお、「ノダフジについて発表したい」などの声が児童からあった場合は、国語科「発信しよう、私たちのSDGs」や「プレゼンテーションをしよう」の活用、実施したいと考える。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・ 有限性…戦禍や災害により幾度となく途絶えつつあったノダフジは、各時代の人々の思いによってその度に復活・伝承されてきたが故であり、今後も様々な要因で途絶えしまう可能性がある。
- ・ 責任性…「のだふじの会」をはじめ、様々な人の思いや協力によって受け継がれてきたノダフジを未来に残すためには、現状を知った上で、自分たちのできる範囲で行動することが大切である。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・ クリティカルシンキング

街中で当たり前のように咲くノダフジが「なぜ有名なのか」を問うことで、毎年きれいに咲かせようと活動する人々の努力が途絶えてしまうと再び咲かなくなってしまう可能性があることに気付く。

・ 他者と協力する態度

「のだふじの会」などノダフジに携わる人々と出会うことで、様々な世代の人々が自分たちのできる範囲で携わらなければ、後世へ伝えることは難しいことに気づく。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

・ 世代間の公正

人々の思いによって幾度も戦禍や災害の危機を乗り越え、世代を超えて伝承されてきたノダフジ。

・ 自然環境、生態系の保全を重視する

近代化や都市開発、戦禍、災害などの要因によって、生態系は簡単に崩れてしまうこと。

・ 人権・文化を尊重すること

街中に咲くノダフジは、人々の努力によって守られ、受け継がれてきたことに気づき、誇りをもつ。

・達成が期待される SDGs

【目標 11 住み続けられるまちづくり】

戦禍や近代化、工業化、災害など様々な要因で何度も絶滅の危機があったノダフジ。

【目標 13 気候変動】

温暖化やヒートアイランド現象によるノダフジを咲かせることの難しさ。

【目標 17 グローバル・パートナーシップ】

未来へノダフジを受け継いでいくには様々な人びとの協力が必要である。

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 新札を起点に、ノダフジが有名な理由やその歴史を理解している。</p> <p>② 調べ学習や聞き取り調査などから、ノダフジの伝承や復活に込められた思い、抱える課題を理解している。</p>	<p>① 「のだふじの会」など人々の思いや課題を踏まえ、ノダフジが咲き続けるために必要なことを考えることができる。</p> <p>② 課題解決に向け、自分たちでできることを考え、表現・共有している。</p>	<p>① 情報の読み取りや聞き取り、整理を意欲的に行っている。</p> <p>② ノダフジや地域のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ ノダフジを未来へ伝えるために必要なことを模索しようとしている。</p>

5. 単元の展開（全25時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
みつめる	①大阪市福島区由来のノダフジが新札に採用されるほど有名であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 紙幣裏面の風景が何県なのか調べる中で、ノダフジが大阪市福島区に由来する花だと気づかせる。 ノダフジが描かれた駅名標などの紹介。 	【ウ①】
しらべる	<p>② 資料などを活用し、ノダフジについて調べる。ノダフジは絶滅寸前から復活した花であることを学習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に関する資料の用意(書籍の要約版など)。 豊臣秀吉が訪れるなど有名だったこと、明治時代以降の近代化や昭和時代の空襲・台風など、様々な要因で絶滅寸前になったことなどに気づかせる。 	<p>【ア①】</p> <p>【ウ①】</p>
ふかめる	<p>④ 実際にノダフジの花を見物しに行く。見学先の春日神社で出会った「のだふじの会」の方からノダフジ復活や現在の活動などについてお話を伺う。境内にある『野田藤の跡』碑や隣接する資料室も見学する。</p>	<p>○ノダフジの良い話（主に平成時代以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「福島の花は悪いところだらけ」と言われても諦めず、何年も試行錯誤を続け再び咲くようになった。 鳩除けネットの設置などの手入れが必要である。 福島区の花はノダフジに変更された。 歴史ある藤を地域の宝として大切にしたい。 ノダフジが咲くことは当たり前でなく、手入れがあるが故であることに気づかせる。 『野田藤の跡』碑を通じ、戦後ノダフジが地域で忘れられた時期があったことを理解させる。 	<p>【ア②】</p> <p>【ウ①】</p>

ふかめる	⑥ 町探検でノダフジや関係するものを探し共有する。	・タブレットで撮影するなど記録させる。 ・デジタルツールを活用し、共有させる。	【ウ②】
	なぜ「のだふじの会」の人々はノダフジ復活に努めているのだろうか？		
	⑧ 人々が活動を続ける理理や ⑩ 思いについて考える。 ノダフジを未来に伝えるために自分たちが出来ることを考える。	・先人の思いや努力により何度も危機を乗り越えたノダフジを未来へ伝承しようとしていることに気づかせる。 ・花の見物や「のだふじの会」の方のお話、町探検を通じて発見したノダフジの良さを整理させる。	【ウ①】 【ウ②】 【ウ③】
	⑪ 「のだふじの会」の方に前 ⑫ 時で考えた内容を発表する。その後、「のだふじの会」の方から現在、直面している課題について初めて話を聞く。	○「のだふじの会」が抱える課題 ・温暖化に伴う猛暑で水やり、剪定作業が増加。 ・高齢化に伴う高所での作業の難しさ、管理する藤棚の縮小を開始。後継者問題。 ・区内の関心を感じる事が難しい。 ・継ぎたいと思って貰うには花を咲かすしかない。 ・コロナ禍以降、近隣学校との交流がなくなった。 ・発表内容では課題解決が難しいことに気づかせる。	【ア②】 【イ①】 【ウ①】
⑬ 「のだふじの会」が抱える課題の原因を考える。 ⑭ ノダフジや「のだふじの会」 ⑮ の認知度について調べる。	・ノダフジや「のだふじの会」が認知されていない可能性に気づかせる（フォトコンテストの受賞者に区内の人がいなかった例などの活用）。 ・アンケートの作成、結果の共有をさせる。	【ア②】 【イ①】 【ウ③】	
ひろげる	ノダフジがこれからも咲き続けるために私たちは何をしなければならないだろうか？		
	⑯ 高所での作業など、児童が ⑰ 直接的な解決に関与することが難しい課題であったとしても、ノダフジがこれからも咲くためにすべきことについて考える。	・①何度も絶滅しかけた要因とその際の人々の思いや行動（後世への伝承を目指した『藤伝記』など）、 ②「のだふじの会」の方から教わった伝承への希望（区外からの会員入会、新札やSNSの影響によるノダフジ見物客の増加など）を振り返る。 ・室町幕府2代将軍をはじめ先人の和歌を紹介する。 ・児童が大人に働きかけ課題が解決した事例の紹介。	【ア②】 【イ①】 【ウ③】
	⑳ 「のだふじの会」の方と一緒に実行する案を決める。	・児童が考えた自分たちにできることを提示し、「のだふじの会」の方と一緒に取り組む実践を決める。	【イ②】
	㉑ (例) 学校や地域などにノダフジに関する発信をする。	・必要に応じて国語科などの単元を活用する。	【イ②】 【ウ③】
	㉒ (例) 藤棚管理の活動などに ㉓ 大人も巻き込み参加する。	・「のだふじの会」がしている藤棚の管理活動などに保護者などを交え参加させて頂く。	【イ②】 【ウ③】
	㉔ アンケートを再実施し、認 ㉕ 知の変化などを確認する。	・前回実施のアンケート結果と比較し、児童の活動から大人の認識に変化が生じたかを検討させる。	【イ②】 【ウ②】

